

自社課題“解決”講座

ウィズ・コロナ時代がはじまり、経済活動が活発化している昨今、取り組むべき問題が多く、PDCAサイクルによる改善ではもはや対応できない現実があります。本講座では「蓄積されたデータをどう活用すべきかわからない」企業様を中心に課題の定義などを学び、同じ富山で活動するデジタル化の専門家と、IoTをはじめとするデジタルツールの活用も含めて検討を進めることで、企業課題解決に向けた方向性を見つけて頂きます。

データの活用、出来ていますか？

企業内に存在するデータは
現状を知る以上の役割は果たしません！

データの活用とは、あるべき姿に向かい
データを根拠に意思決定する
組織づくり、工程づくりから始まります。
御社はデータの活用、出来ていますか？



概要

- 実施期間 : 令和6年1月～3月
- 実施会場 : 富山県総合情報センター(富山市高田527)で対面にて実施
- 対象者 : データの活用悩む経営者、担当責任者の方
- 定員 : 10名程度(プレ・ワークショップを除く)
- 講座回数 : 全5回(プレ・ワークショップ、ビジネスマッチングを除く)
- 実施時間 : 13:30～17:00(開場13:00)
- 参加費 : 無料

申込方法 : 下記URL または 右記QRコードにて
<https://forms.office.com/r/tpwSQqyEth?origin=IprLink>

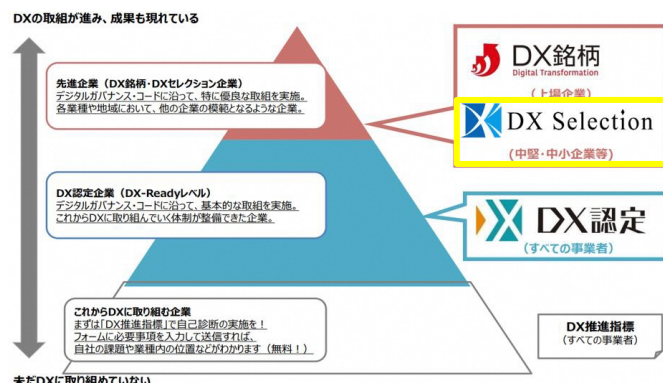


講座カリキュラム

名称・日時	講座内容
プレ・ワークショップ 12/13(水) 前半：10:00～11:00 後半：15:00～16:00 富山県総合情報センター・第1会議室	企業におけるデータの活用とは何か ※プレ・ワークショップは同一内容で前半・後半の2回開催致しますので、ご都合の良い時間帯にご参加下さい。
第1回 講座 1/17(水) 13:30～17:00 富山県総合情報センター・第1・2会議室	- 企業概要の共有 - 現状データ（取得内容）の確認 - 顕在課題の共有（参加者様が認識している課題感についてのチーム内共有）
第2回 講座 1/24(水) 13:30～17:00 富山県総合情報センター・第1・2会議室	- 現状データ（取得内容）の確認 - 顕在課題の深堀（人的生産時間、頻度・影響度の高い問題と業務フロー上での発生ポイント）
第3回 講座 2/7(水) 13:30～17:00 富山県総合情報センター・第1・2会議室	あるべき姿の模索（知的財産の棚卸とビジョンについて）
第4回 講座 2/21(水) 13:30～17:00 富山県総合情報センター・第1・2会議室	あるべき姿の模索（ピラミッドストラクチャーを使ったKGI,KPIの設定）
第5回 講座 3/6(水) 13:30～17:00 富山県総合情報センター・第1・2会議室	今後のビジョンの策定と会全体での共有
ビジネス・マッチング 3/13(水) 13:30～17:00 富山県総合情報センター・セミナー室A・B	課題提供側のビジョン等に対し支援側の伴走方針等の発表（マッチングは札上げ方式）

【過去実績】

過去ご参加いただきましたケーシーアイ・ワープユニット株式会社様は、本取組みを切っ掛けにパートナーとDXを推進され、経済産業省主催の「DX Selection 2023」で優良事例に**選出**されるまで、大きく躍進されました。



【お問い合わせ先】

富山県IoT推進コンソーシアム事務局 Tel：076-444-3249 Fax: 076-444-4402

講座概要

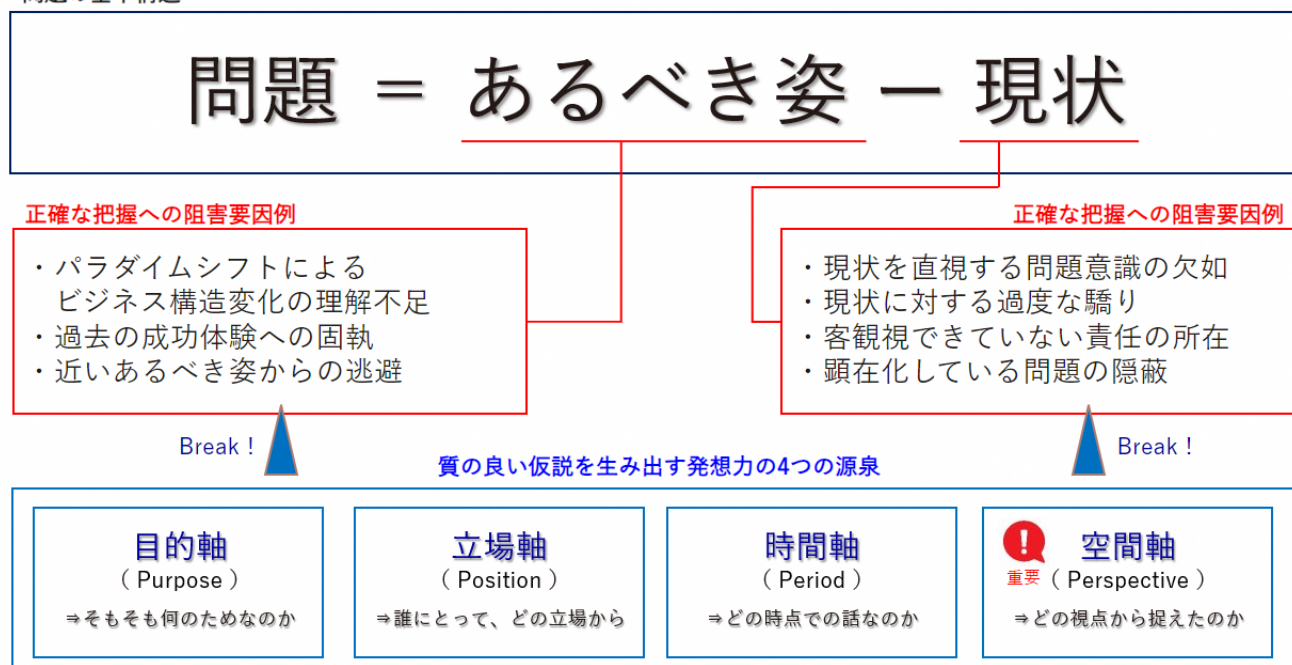
本講座において最も重要視しているのが、問題や課題の定義です。「あなたの会社における問題は何でしょう。課題は何でしょう。」という質問をした場合、多くの方が今困っていることを挙げられます。ただ、その問題・課題は企業として部門としてあるべき姿に向かうためにやるべきことでしょうか。問題とはそもそも、現状とあるべき姿とのGAPになります。このGAPが問題であり、問題の中でまず解決すべきGAPが課題となります。

場当たりのであろうが何であろうが、KKD（勘・経験・度胸）のみで、目の前の事象に一生懸命対応すれば道は自ずと拓けていくという時代はもはや過去のものです。



なぜ、問題や課題の定義がこのようにシンプルな構造になっているにも関わらず、現実では発見が難しいのか。その答えは現状にせよ、あるべき姿にせよ、その姿を正確に把握しようとする際に様々な阻害要因が企業に存在するからです。その阻害要因を取り除くためには仮説検証を繰り返すしかなく、質の良い仮説を立てるには4つの思考軸が必要となります。

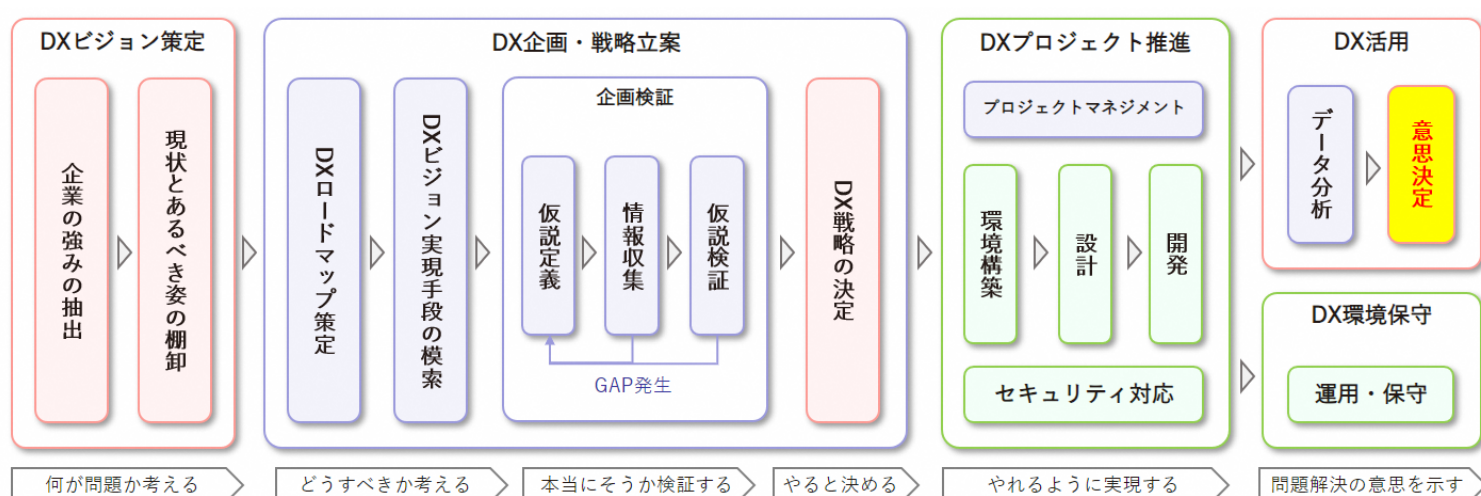
問題の基本構造



講座概要

企業におけるデータ活用の本質は「データが意思決定に使える形になっているか」に尽きます。ではどんな意思決定をすべきなのか。それが戦略であり、正しい戦略を描くには先述の4つの思考軸から導き出した仮説が必要となります。そして仮説の前提となるのが、正しい現状把握とあるべき姿なのです。

過去、多くの企業が「今後何かの役に立つかもしれないから」と数多くのデータを蓄積してきました。そのデータと呼ばれる中身は業務を滞りなく遂行した上で蓄積された副産物でしかなく、そこから新たな価値を見つけることは極めて難しいことが、様々なデータサイエンティストによって検証されてきました。**企業に存在するデータは、現状を知る以上の役割は果たせない**という事実をまず受け入れ、企業における強みの抽出から一歩ずつデータを使いながら戦略の検証を進めていくと同時に、**それを実現する組織、プロセスの構築こそがデータ活用組織への最も近道**だと言えます。



日々移り変わるビジネスシーンでの対応に追われ、このようなことをゼロベースで考える機会自体が減っていております。本講座では課題提供企業と課題解決支援企業が協力し、データ活用に至るための解決方針を検討して頂きます。尚、本年6月～9月に開催された講座では14もの企業間マッチングが成立致しました。この場が御社がデータ活用組織に生まれ変わる切っ掛けとなれば幸いです。



前回講座風景